

「しぜんであそぶ！」 まるあかりガイドブック

～「土場」と「きっかけ」から身に付く 36 の動き～



本ガイドブックをご覧になっている皆様へ

空にはあたたかいお日さまが昇り、
そよ風が森の木々をゆらしている。



緑の芝にはたくさんの幼児が走りまわり、
なかには泥だらけになりながら木のぼりや
坂を転がるやんちゃな子がいる。

森いっぱい大きな笑い声がひびきわたり、
くたくたになるまで遊びつづけている。

耳を澄ませば、「ぼくできた!」、「私もやりたい!」、
「一緒にあそぼう!」・・・といった声が
あちらこちらから聞こえてくる。

自然には幼児の好奇心をそそるものがたくさんある。
幼児と一緒に自然の中へ行ってみませんか。

『「しぜんであそぶ!」まるわかりガイドブック』発刊にあたり

当機構は青少年教育のナショナルセンターとして、青少年の様々な課題へ対応するため、教育的な観点から、自然体験や宿泊体験などの活動を通じて青少年教育の振興及び青少年の健全育成を図ることを目指しています。

当機構には、全国各地に施設があり、どの施設も、森・山・川・海等の雄大な自然に囲まれています。また、それぞれの自然環境を活かした特色のある活動を展開し、青少年の生きる力の育成に努めています。

当機構は発足当初から、幼児向けに自然の中での様々な遊びを提供して参りましたが、より一層質の高い遊びを提供するために、山梨大学の中村和彦教授を委員長とする「幼児期の遊びを中心とした運動プログラム開発・普及委員会」を平成27年度に設置し、ガイドブック「遊んで身に付く36の基本的な動き」を作成し、幼

児が主体的に遊びながら自然に身に付く「36の基本的な動き」の普及に努めてまいりました。

幼児にとって自然の中で遊ぶことは、身体の諸感覚をフルに使いながら体を動かすことにつながり、遊びも非常に質の高いものとなります。

今回、自然の中で遊ぶことの大切さを、私どもの施設が有する豊かな「自然環境」に焦点を当て、ご紹介するために本ガイドブックを作成いたしました。

平成30年5月
国立青少年教育振興機構
理事長 鈴木 みゆき



小泉英明 氏×鈴木みゆき

『自然の中で遊ぶことは、多様な動きの獲得につながるだけでなく、感性を高める！』



小泉氏(左) 鈴木(右)

幼児期における体験と脳の関係

鈴木 私どもは、乳幼児期における体験活動が非常に重要であると考えており、実際に私どもの施設でも年々幼児の利用者数が増えています。そこで、脳科学から見た幼児期について、先生のお考えをお聞かせください。

小泉 幼児期が大事な時期だというのは、保育に携わっている方々は直感的に、あるいは経験から十分理解されています。しかし、一般の方や政府の研究開発に関わる方にご理解いただくためには、正しいデータに基づいて証明しなければなりません。



鈴木 おっしゃるとおりです。私どもは、直感では「体験」がいいと理解していますが、正しいデータに基づいた証明という点では、まだまだ不十分な現状があると思っています。この点について、脳科学的に示唆していただけることはありますか。

小泉 まず、人間の進化と教育の関係について触れたいと思います。進化の過程で、脳がとて大きくなくなった人間は、他の哺乳類と比べて1年ぐらい早く未熟の状態で生まれます。それは、胎児期の赤ちゃんが胎外の環境に出てきたことによって教育が可能になる、ということをも意味します。とりわけ、人間としての一番の基礎をつくる産後の1年間を含む最初の3年が特に重要であることが、脳科学からも分かり始めています。

体験という意味では、動作と脳の関係に触れる必要があります。例えば、人間に一番近い種であるチンパンジーは、木から落ちないように枝をしっかりとつかむことは得意ですが、ものをつまむことは不得手としています。木から降りた人間は二本脚で立ち、細かい動作を行うために、指を器用に使えるような進化をしました。指を動かすことは脳の神経回路と直結していますので、指を動かす動作は脳の発達にも非常に重要です。指を使う行為、例えばつまむという行為は、握る行為とは少し違う神経系を経由して、より直接的に脳と連結しています。

野原に放て

鈴木 先生はある雑誌で、「野原に放て」と書かれていますが、まさにそういった脳と直結した動きが自然の中で自ずと身についていく、ということですね。

小泉 はい、そうです。例えば自然の中で、石を遠くに投げるのは一見簡単に見えますが、分解するとかなり複雑な運動です。肩、肘、指を使う統合した動作なので、握ることしかできないチンパンジーには難しい動作です。また、それは大人になってから始めてもなかなか身につかない動作ですので、小さい時に行うのが非常に重要です。つまり、運動をすることにおいても、これまでは単純な行動の個別の要素を習熟すると言われていましたが、最近ではいくつかの複雑な行動を統合したようなものが小さい頃にもつくられると分かってきています。

幼児期における自然体験活動と発達について

鈴木 文部科学省が掲げる幼児期運動指針の中では、幼児期は教え込むのではなく、多様な動きをす

る中で自然に身についていくものだと書かれています。先生がおっしゃるように、自然の中で子供たちの遊びを通じて身についていく、その動きが脳神経の発達においても重要であると考えてよろしいですね。

小泉 おっしゃるとおりです。ただ、運動と基礎的な感覚については臨界期がありますから、幼児のうちに身につけることが非常に重要です。人間は、環境からの外部刺激で神経回路が作られるため、生まれ育った環境に対して最も効率的な脳がつくられていきます。例えば、縦縞だけの環境の中で子猫を育てると、横縞が見えない猫が育つことが実験で証明されています。人間においても、例えばビルの谷間で育った子供は、直線に反応はできますが、丸い線や斜めの線には強くない人間が育つ可能性もあります。

鈴木 私どもは、多様な感覚の宝庫である自然の中に子供たちがいることによって、身体の諸感覚が鍛えられると考えております。その意味で、自然が少ない都会で育つ子供達は、貧困な環境にあると言わざるを得ないと思います。

小泉 はい、ただ、都会にいても自然体験は十分可能なので、要は環境を整えてあげることが大事だということです。それから多くの誤解があるのは、小さい時から良い音楽を聞かせたいということで、ピアノなどの楽器を聞かせることが最も良いと思われがちですが、実はピアノの一つ一つの音は単純に弦を叩いているだけなのです。個々の音自体は周波数成分が単純で、音に関わる諸感覚の発達には効果は限定的です。一方で、木の葉が風でさやさやと揺れる音、波の音、雨の音など、自然の音はたくさん周波数成分を含んだ非常に豊かな音なので、諸感覚の発達に効果的です。そのため、音楽家の中には、周波数帯域の幅広い音源が得られる熱帯雨林に入る方もいます。人工的という点では、都会の騒音も周波数帯域はそれほど広くありません。

保育者・指導者の役割

鈴木 なるほど。子供たちを育てる中で、多様な環境を用意してあげることも大切ですね。そして、そのために、保育者、指導者がどのように関わるかが非常に重要ですね。

小泉 そうですね、多様で且つ本物を見せてあげることが大切です。私たちが小さい頃に過ごした「原っぱ」は、自分たちの創造力でいろいろなことができるという点で、非常に大事な環境であり、また重要な概念だと思っています。自然の中で遊ぶことは、多様な動きの獲得につながるだけでなく、さまざまな感性を高めることにもつながります。

また、大切なのは、子供たちに強い興味を持たせ、感動を共有することです。そのために保育者の方々が、子供たちのような気持ちになって、一緒に楽しんでいくことが大事だと思います。2006年に実施されたPISA(OECD生徒の学習到達度調査57カ国の15歳男女40万人が参加)では、「科学への興味」についてのアンケート結果が、参加国中、日本がほぼ最下位でした。日本は受験勉強の影響もあって知育は発達していますが、「意欲」や「やる気」は低い傾向にあると思います。その点で、自然の中での活動は「意欲」や「やる気」を育むので非常に重要です。

平成30年2月23日実施
於：国立オリンピック記念青少年総合センター



小泉 英明氏：日立製作所名誉フェロー。脳機能の計測を可能とする機能的MRI装置や光を用いて自然な状態で脳機能を計測できる光トポグラフィなど脳科学の発展に寄与する技術開発に携わる。OECD「学習科学と脳研究」国際諮問委員や文部科学省・科学技術振興事業団の「脳科学と教育」領域総括などを歴任。

鈴木 みゆき：独立行政法人国立青少年教育振興機構理事(前和洋女子大学教授)。医学博士。「子どもの早起きをすすめる会」発起人。幼児教育の専門家として、保育者養成や地方自治体の教育委員として教育行政にも携わる。

「しぜんであそぶ！」 まるちかりガイドブック

～「土場」と「きっかけ」から身に付く 36 の動き～

もくじ

- 02 …… スペシャル対談 「自然の中で遊ぶことは、多様な動きの獲得につながりだけでなく、感性を高める！」
- 06 …… ガイドブックについて
- 08 …… ガイドブックの使い方

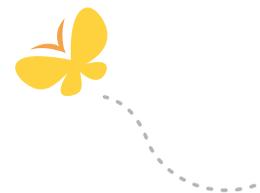
写真でみる36の基本的な動き

- 10 …… 「イグルー作り」(大雪)
「電柱deじゃんけん」(岩手山)
- 11 …… 「丸太わり&丸太のぼり」
「岩あそび」 (磐梯)
- 12 …… 「ごろごろマルタ」
「ファイト！ いっぱーつ!!」 (能登)
- 13 …… 「あそぼうのりくら！～雪のぼうけん～」(乗鞍)
「忍者遊び」(江田島)
- 14 …… 「秘密の溪谷を大冒険！」(阿蘇)
「海の活動・砂浜遊び」(沖縄)
- 15 …… 「ターザンロープ」
「雪だま積み」 (花山)
- 16 …… 「カーリングボウリング」(信州高遠)
「うみとともにだちになろう①」
- 17 …… 「うみとともにだちになろう②」
「どこまで行こうか？森のハイキング」 (若狭湾)
- 18 …… 「いろいろな木にのぼってみよう」
「雪の村を作ろう、深雪体験」 (妙高)
- 19 …… 「チャレンジつなわり」(山口徳地)
「川遊び」(夜須高原)
- 20 …… 自然の中で遊ぶ幼児の姿



幼稚園教育要領等から見た実践事例報告

- 21 …… 幼稚園教育要領、保育指針等に基づいた運動遊びと運動の質を高める工夫について
- 22 …… 妙高青少年自然の家「妙高の森遊び」
- 24 …… 立山青少年自然の家「トントンたんけん隊」
- 26 …… 花山青少年自然の家「花山であそぼう！」
- 28 …… 磐梯青少年交流の家「雪あそび」



援助にあたってのポイント

- 30 …… 自然との関わりの中で「健康な心と体」を育む
幼児が「やってみたい」となる「場」と「きっかけ」
- 31 …… 森（春～秋）へ出かけよう
森（冬）へ出かけよう
- 32 …… 海・川・沢へでかけよう
安全指導のポイント（環境の把握）
- 33 …… 保育者の援助の工夫
- 34 …… 安全指導のポイント（幼児への伝え方）
- 35 …… 自然の中で遊ぶ際の服装
自然の中で遊ぶ際の指導者の持ち物

最後に

- 36 …… 幼児期の教育の重要性について



ガイドブックについて



●運動の量と質

大人の生活様式は、年々利便性があがって快適な生活が送れるように変化してきていますが、幼児の生活環境もそれに合わせ大きく変化しています。日本にとっての都市化と少子化の進展は、子供の遊ぶ場所、遊ぶ時間、遊ぶ仲間の減少を招き、結果的に子供の多様な動きの獲得を妨げ、運動能力の低下を招いてしまっています。

文部科学省は平成24年に『幼児期運動指針』を作成し、幼児は様々な遊びを中心に毎日合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切であると示すとともに、どのような身体活動を行うのかといった運動の質も大切であると述べています。

では、運動の質はどうしたら高めることができるのでしょうか。

その一つとして、このガイドブックで目を向けたのが、自然の中での遊びです。例えば、人間の基本的な動きの一つである歩くことを例に挙げて考えてみましょう。森の中で歩くということは、ぬかるんだ土の上を歩いたり、地面に大小の石が

ある凸凹したところを歩くことになります。足を着地してから踏み出す際に、アスファルトとは違う不安定さを受け入れなければなりません。幼児にとっては、絶えず着地地点と踏み出しを意識しながら全身をコントロールするという極めて高度な動きが求められ、このことが運動の質を高めることにつながると考えられます。

また、森の中では、滑りやすい坂道を上がったリ、倒れた木や岩の上を乗り越えていったり、難しい所を克服した際には達成感を得られることもあります。さらに、鳥が鳴いたり、虫が飛んできたり、幼児が興味を示す動植物に会えることもたくさんあります。幼児にとって、自然は好奇心をそそるものであるとともに、腕や足など体の様々な部位が連動しながら、多様な動きを行い易くする環境にもなります。

●「場」と「きっかけ」

このガイドブックは、「場」と「きっかけ」を明確にして、幼児が自然の中で活動する際に指導者（保育者を含む）が大切に考えたい内容を盛り込みました。「場」とは文字通り、自然の中のフィールドを指すことにしましたが、「きっかけ」については、協議の結果、『幼児のやってみたいを生みだすもの（「人（仲間・指導者）」・「もの」・「こと」全

てへの働きかけ』と決めました。

また、幼児がもっと体を動かしたいと思うようになるためには、指導者の環境への働きかけと幼児に行う直接的な働きかけ（幼児への援助の工夫）があり、それぞれ分けて記載することにしました。

●幼児期に身に付けたい36の基本的な動き

最後に、幼児の遊びを運動発達の視点から見た際に、どんな動作をしているのか分かり易くするために、山梨大学教授中村和彦氏が考案した

「幼児期に身に付けたい36の基本的な動き（右ページ参照）」を取り入れ、まとめました。

上記3つの観点から、このガイドブックを見ていただければ、自然の中で幼児が遊んだり、運動したりすることの大切さを理解いただけたらと思っております。

36の基本的な動き

体のバランスをとる動き



うく



おきる



くむ



さかだちする



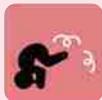
たつ



のる



ぶらさがる



まわる



わたる

体を移動する動き



あるく



およぶ



くぐる



すべる



とぶ



のぼる



はう



はしる



はねる

物を操作する動き



もつ



ささえる



はこぶ



おす



おさえる



こぐ



つかむ



あてる



とる



わたす



つむ



ほる



ふる



なげる



うつ



ける



ひく



たおす

ガイドブックの使い方

●写真で見る36の基本的な動き

施設名



本活動を実施した際に、幼児から見られた36の基本的な動き

※幼児の発想次第では、いろいろな動きがどんどん生まれます

幼児の遊び場は、園庭、公園、ちょっとした空地、家の中とさまざまです。

しかし、自然のフィールドは四季を通して移り変わりがあるため、一日一日に変化があり、豊かな表情を見せてくれます。

幼児にとって、自然の中での遊びは、身体の諸感覚を使い、全身で遊べる機会となります。

春に森の中に入れば、新鮮な若葉の匂いが遊びへと誘います。

夏に海や川へ行けば、波の音や川の流れを聞きながら水で遊ぶことができます。

秋に森の中に入れば、地面に落ちた葉っぱやどんぐりに触れながら遊ぶことができます。

冬に森の中に入れば、動物たちが残した足跡を見ることができます。

また、自然に詳しい指導者がいれば、より自然に親しむこともできるでしょう。

幼児が身体の諸感覚を使いながら遊ぶ姿は真剣そのものであり、時に見せる満面の笑顔は天使のようでもあります。このページでは、各国立青少年教育施設で実施した活動で見られた幼児の姿や表情を20事例集めました。

●青少年教育施設で実施しているプログラム実践事例

本活動の主な内容と、実施に要する所要時間

本活動を実施した際に、幼児から見られた36の基本的な動き

※幼児の発想次第では、いろいろな動きがどんどん生まれます

保育施設で実施する際のアドバイス

幼稚園教育要領・保育所保育指針等との関わりについて

国立青少年教育施設では、自然を活用した幼児向けプログラムを提供している施設がたくさんあります。今回、「幼児期の遊びを中心とした運動プログラムの推進事業」普及委員会（以下、普及委員会）の委員が、実際に幼児が活動している様子を視察しました。

幼児期の教育に関わっている指導者に役立ててもらえるよう、運動プログラムの概要や工夫しているポイント、幼稚園教育要領等（平成30年度施行）の視点、幼稚園・保育所等でも生かすことができるポイント等を

踏まえ、4施設の事例を掲載しました。

また、幼児が自然の中で活動する際に、保育者が配慮すべき事項（環境への働きかけや援助方法、安全対策等）をP30～P35にまとめています。ぜひご活用ください。



写真でみる36の
基本的な動き

●大雪青少年交流の家●

みんなでつくろう！雪の秘密基地！



雪のかたまりは
すごく重いよ。



イグルー作り



雪を切るのが
楽しいよ。

36の基本的な動き



●岩手山青少年交流の家●

おとつと〜！ ど〜ん！！ じゃんけんぽん！！！！

電柱deじゃんけん



じゃんけん
ぽん！！



電柱の上を歩くのは
難しいけど、
じゃんけんするのが楽しいから、
お友達の所まで、
がんばって歩けるよ！！



36の基本的な動き



● 磐梯青少年交流の家 ●



全身でバランスをとりながらわたってみよう!
のぼってみよう!

丸太わたり&丸太のぼり



上手く渡れたよ!



やっとのぼれたよ!



ちょっとむずかしそうだけどチャレンジするよ!

ジャンプ!

36の基本的な動き

たつ	わたる	のぼる
とぶ	のぼる	

岩もともだち!
岩にのぼろう つかまろう ジャンプしよう!

岩あそび

手も使ってのぼろうね。



岩の上は、高く気持ちいいよ!



おおきなカエルの岩すべっておもしろいよ!



36の基本的な動き

たつ	わたる	のぼる	すべる	とぶ	のぼる

● 能登青少年交流の家 ●



バランスをとって、落ちずに渡れ! ごろごろマルタ。



ごろごろマルタ

36の基本的な動き



だんだん
上手になって、走って
あたるようになったよ。



丸木を上手に歩けたよ。



枝が伸びてたり、
すべすべだったりして
難しかったよ。

ファイト! いっぱ一つ!!

ロープを握って、登れ! 登れ!



何回も滑って
大変だったけど、
上まで登れたよ!

カニさん歩きが
楽しかったよ。

ロープに
つかまりながら、
登ったよ。

36の基本的な動き



●乗鞍青少年交流の家●



パウダースノーをまきあげ、かけぬけろ!

雪あそびって楽しいな!

あそぼうのりくら!~雪のぼうけん~



ソリで「びゅー」とすべったら、
ドキドキしてあくあくして、
みんなでにこにご笑ったよ!

36の基本的な動き



のほる あるく すべる



ほる はこぶ ながる

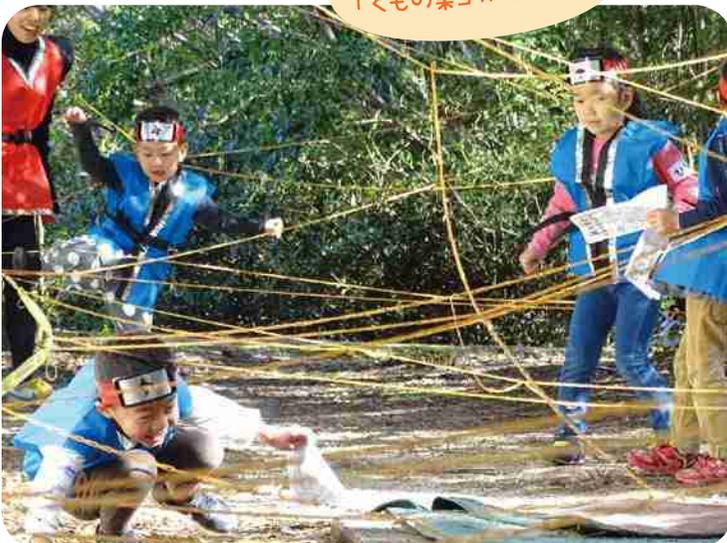
●江田島青少年交流の家●

とんで、くぐって! 脱出大作戦!!



忍者遊び

角をまがると、大きな「くもの巣」があったよ。



/とぼうかな?<く>ろうかな?/

36の基本的な動き



くぐる とぶ はしる はねる

● 阿蘇青少年交流の家 ●

秘密の溪谷を大冒険！

阿蘇の溪谷で源流トレッキングにチャレンジ



水しぶきが冷たくて
気持ちがいいよ！



水の流れに
負けずゴールの
滝を目指すよ！

36の基本的な動き



● 沖縄青少年交流の家 ●

海の活動・砂浜遊び

海でぷかぷか！ 砂浜ほじほじ！



海でラッコや
スーパーマンに
なったよ！

ぷかぷか浮いて
楽しかった！



砂の下からたくさん
宝ものを見つけたよ！

36の基本的な動き



●花山青少年自然の家●



ターザンのようにゆーらゆら



ターザンロープ

36の基本的な動き

ぶらさがる	のぼる	はねる	つかむ	ひく



がんばれ！がんばれ！
こあくなんかないぞ！



ロープをしっかり
足に挟んでね。
順番を待ちながら、
お友達の動きをチェック。

どこまで高くつめるかな？

雪だま積み



見て！見て！私達のグループ
こんなに高く雪玉を積めたよ。



落ちないようにゆっくり、
そーと。

36の基本的な動き

つむ	おさえる	ささえる

● 信州高遠青少年自然の家 ●

ツルツル、ワクワク! めざせ、ストライク!!



倒せて嬉しい!!

カーリングボウリング



36の基本的な動き



氷の上でツルツルしたけど、よ〜く狙って投げたらいっぱい倒せたよ。

● 若狭湾青少年自然の家 ●

うみとともにだちになろう①

海って浮くんだ! 生き物もたくさんいるんだ!



海で上手に浮かべたよ!
とってもいい気持ち。
太陽がまぶしい、空もきれい。



海の底まで見える。
あっ、魚だ! 魚がいたよ!



36の基本的な動き



波と遊ぼう！ 波の力を感じよう！



うみとともにだちになろう②

ワァ〜！波って
すごいわなんだね。



36の基本的な動き



うく



おきる



たつ



とぶ



およぐ



はねる



はじめはちょっと
怖かったけど、
流されたり、押されたり、
波と一緒に
遊んでくれたよ。



よーし、波を
飛び越えよう！

寄り道 道草 のんびり散歩

どこまで行こうか？ 森のハイキング

どんぐりを
見つけたよ！



葉っぱでお面も
作ったよ！



水も流れてる！



坂道はきつかったけど、
森のハイキング、
いつもより長く歩けたよ。

36の基本的な動き



わたる



あるく



はしる



のぼる



なげる



もつ

● 妙高青少年自然の家 ●



気分は森のおさるさん!

いろいろな木に
のぼってみよう

この木、
わたしの木!



ジャンプ!



36の基本的な動き



雪はともだち

雪の村をつくろう、深雪体験

こやあって、
すくってみよう!



こっちのほうか
速いよ!



36の基本的な動き



● 山口徳地青少年自然の家 ●



ゆらゆらドキドキ勇気のロープ

チャレンジつなわたり



1回できたら楽しくなって、何回も渡ったよ。

はじめは
こわかったけど、
みんなと一緒にだと
渡れたよ。

36の基本的な動き



たつ



わたる



のる



ぶらさがる



あるく



つかむ



● 夜須高原青少年自然の家 ●

自然の中で水遊び



))))))



川遊び

カニや魚をつかまえたり、
みんなで水を
掛けあったりして楽しかった。

36の基本的な動き



たつ



あるく



のぼる



自然の中で遊ぶ幼児の姿

自然の中で遊んでいると、こんな場面に出会うことがあります。
元気に遊ぶことも自然の特徴ですが、動物や植物との出会いもまた、
自然の魅力的な一面です。ちょっとだけ紹介します。

葉っぱのお布団！
あったかいね！



葉っぱは
天然のお面だ。
あたしだーれだ！



みてみて！
ぴかぴかのどんぐり！！
カタチもいろいろあるね。



大きないもむし！
さあてだいじょうぶかなあ？



季節や天気によっても出会える自然はちがいます。
どんどん自然のなかへでかけてみてください！

幼稚園教育要領、保育指針等に基づいた運動遊びと 運動の質を高める工夫について

幼稚園教育要領第一章総則では、『幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心』とすることが示されています。この理念は保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領においても共通しています。そして、運動遊びも自発的な遊びであることが大切です。なぜなら大人からの一方的な運動指導では、順番を待つなど運動をしない時間が長くなることや、幼児が「もっとやりたい」と感じにくいといったことがあるからです。これでは豊かな運動経験には繋がりません。実際に一斉的な運動指導を行う園と行っていない園の幼児の運動能力を比較すると、行っていない園の方が行っている園よりも運動能力が高いという研究結果もあります。

ただし、運動遊びを好まない子もいますし、特定の遊びばかりをすることで運動経験が偏ることもあるため、幼児任せにはしておけばいいわけではありません。また乳幼児期の運動発達には、特定の運動をひたすら繰り返すのではなく、多様な動きを経験することが重要です。多様な動きを経験するためには、遊びの種類が大きく影響します。そこで、どの幼児も多様な運動遊びをしてみたいと思えるような工夫が必要です。森や川、海といっ

た自然の中で遊ぶことも有用でしょう。また近年は異年齢の遊び集団が作りにくくあり、遊びの内容が限定されがちです。そこで物的な環境への配慮だけではなく、異年齢で遊ぶ機会を設けることや、大人と一緒に関わり遊びの種類を増やしていくといった人的な環境への配慮も運動遊びのポイントになります。

平成30年4月施行の幼稚園教育要領等には『主体的・対話的で深い学びが実現するようにする』という文言が入りました。これは「自ら進んで仲間と関わりながら試行錯誤する」と読み取れます。運動遊びにおいても、決められた方法・内容を行うのではなく幼児一人一人が興味を持つ遊びを仲間や大人と相談し合いながら工夫して楽しむことが大切です。このような配慮によって、普段は大人数の活動になかなか関われない幼児も運動遊びの楽しさを知り、徐々に自信をつけていくことで積極性が増すことが期待されます。個々の興味関心を引き出せるように運動遊びを盛り上げていきたいものですね。

「幼児期の遊びを中心とした運動プログラムの推進事業」
普及委員会 町山太郎

妙高の森遊び

みんなでそろって森の中へ!? どこへ向かっているのかな。



国立妙高青少年自然の家では、敷地内に幼児が遊べる森を作っています。幼児の手がギリギリ届きそうな枝やぶら下がることができるツル等、幼児が身体の諸感覚をフルに使って遊べる森になっています。そんな森の様子を少し覗いてみましょう。(所要時間：1時間～1時間半)



根本の曲がった樹木は雪の重みで曲がったもの。雪深い妙高ならではの光景です。

* 自然を活かした森づくり

妙高の森の特徴は、自然の「カタチ」そのままを活用していることです。一見、まがった不格好な木や、大きな岩も、幼児にとっては丁度いい踏み台になります。自然を活かしながら、遊びやすいように計算されている森が妙高のフィールドにあります。

また、森づくりには、妙高の職員と地元の森林組合の方が協力しており、毎年少しずつ改良がなされています。

雪深い地域特有の木の形は、幼児にとっては非常に魅力的。思わず登らずにはいられなくなる、そんな木があちこちに点在していて、それだけで子どもの動きを誘発するよ。

* 幼児の多様な動きを引き出す

森の遊びでは、遊び方の見本は示しません。はじめのお話
しで「とぶ」や「はしる」といった「36の動き」が書いてあるパ
ネルを見せて、多様な動きのイメージを引き出すようにして
います。

友達が木に登れば、次々と木に登っていき、誰かがつるに
ぶら下がれば、真似をする子たちがあります。そうやって森の
中での遊び方をどんどん見つけていく姿をあちこちで見ると
ができます。



はじめのお話して注意点などを聞きます。



普段は届かない枝も、岩にのれば手が届きます。



動きのイメージを引き出すお話もあるけど、
遊びの中ではそれにこだわらず、幼児の発想や
はじめたことを大切に見守る姿勢が大事だよ。

お友達より少しでも高いところへ！
いつもと違う景色が見えるかな？



* 循環構造による安全管理

森の中の小路は、循環のできる構造になっており、走って
いっても、もとの場所に戻りやすいようにできています。森の
中を走り回っていても、入口や出口にもどってきます。引率者
をポイント毎に配置することで、包括的に安全管理をすること
ができます。

循環のできる構造は、
安全管理に役立つばかりでなく、
幼児にとっては変化に富んだコースになっていて、
そのなかで時間を忘れたかのように
走り回って遊んでいたよ。



36の 基本的な 動き

妙高の森では、36の基本的な動きのうち、以下のような動きを見ることができ
ました。木の多い場所のため、「のぼる」や「ぶらさがる」が多くなっています。



この森は、まるでトトロの森のようです。
エントランスは枝が張りだしてゲートの様
になっており、わくわく感が高まります。循
環構造は、仙田満さん(東工大名誉教授)の
言う遊環構造とも重なる部分が多く、幼児
にとって魅力的な環境となっています。さら
に雪国ならではの木の形が幼児を誘います。

地元の森林組合の方との連携も取れてい
て、この木は残すといった打合せもなされて
います。視察の際は不順な天候でしたが、雨
が降ってきたり霧が出てきたりと、こうした
変化も幼児にとっては貴重な体験となりま
す。まさに挑戦と体験の森です。

<普及委員会 鈴木隆>



広い原っぱに思わず走り出したりします。

実践事例②

立山青少年自然の家

トントンたんけん隊



立山青少年自然の家には、キツツキの住むトントンの森と大自然の沢があり、コース内に意図的に残された自然物を利用して、幼児が主体的に遊ぶことができます。特に、コース内の様々な変化(地面や森の様子)を身体の諸感覚を使って活動をするので、運動量が多くなります。(所要時間:1時間~1時間半)



水が長ぐつに入ってもへっちゃら。どんどん進みます。



＊ 大自然の探検

施設周辺にある沢は、比較的浅く、幼児でも安全に入ることが可能です。

特徴としては、活動開始後すぐに、大きな岩でできた「沢の滑り台」があり、幼児はみなずぶ濡れになります。はじめにずぶ濡れになることで、濡れることへの抵抗感がなくなり、その後の活動では、意欲的に取り組むきっかけになります。



大きい段差も全身を使って登っています。

濡れたことで、ドキドキ感がワクワク感に変わり、幼児たちの興味や意欲を途切れさせず、心を強くしたかな。



* 幼児の多様な動きを引き出す



トントンの森では、コース内に意図的に残された場の工夫があります。倒木をまたいだり、くぐったり、またはどろ道をよけたり、木登りをしてジャンプしたりと、運動量が多く多様な動きへのきっかけになります。



倒木に次々またがります。何人のれるかな？

大自然を生かした環境は魅力的。
体の動きを調整しながら
全身を使った活動になっているよ。

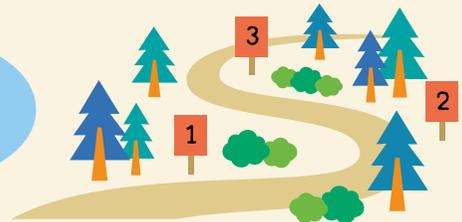


* ゴールの「しるし」が幼児のやる気に

様々な動きが必要なコースを進んでいくと、ゴールまでの「しるし」として、番号のついた看板を見ることができます。幼児がゴールまでの道のりを見通しを持って取り組むことができ、「あと少し」や「がんばるぞ」といった、幼児のやる気につながります。



幼児にも分かるゴールまでの数字が、
最後まで行くという目標につながっているね。
見通しを持つことが大事!!



36の 基本的な 動き

トントンの森では、36の基本的な動きのうち、上記のような動きを見ることができました。森のハイキングコースのため「あるく」「のぼる」「ぶらさがる」などの動きが多く見られました。



たつ



ぶらさがる



わたる



のる



あるく



くぐる



とぶ



のぼる



はしる



はねる

立山の自然を生かしたフィールドでは、コースをクリアしていく中で木々や岩などを使い、体の動きを調整しながら全身を使って活動ができました。視察の際は、学級全員での取り組みでしたが、個々のペースが守られ、慎重にかつ果敢に挑戦する十分な時間がありました。その際、友達の動

きや気持ちに寄り添ったり励まし合ったりしている姿も見られました。リーダーとなる指導者や保育者、友達に支えられて諦めずにやり遂げることの達成感や前向きな見通し(最後まで頑張る)をもって自分の力で取り組めたと思います。

<普及委員会 福井直美>

花山で遊ぼう!

みんなで坂道をダッシュ。



花山青少年自然の家では、キャンプ場に隣接する所に幼児が主体的に遊べる「フィールド」を設けています。その「フィールド」では7種類の活動を体験することができ、子供たちはターザンロープ、木登りなど各々の種目を体験した後、自由に「フィールド」を遊びまわります。(所要時間：2時間程度)



* キャンプ場の有効活用

花山の特徴は、夏以外あまり使用されないキャンプ場を幼児が主体的に遊べる「フィールド」に変えて活用していることです。もともとキャンプ場に隣接した場所なので、木々が多

く、天然の芝も生え、幼児にとっては転んでも痛くない広々とした「フィールド」ができています。幼児たちは、どの活動をしようかと友達と走りまわります。



『リック』の天敵(蛇・たぬき等)に向け、ボールをキック。僕たちが『リック』を守ります!

幼児には主体的な動きをうみ出すイメージが大事! 花山の森の「リック」(花山青少年自然の家キャラクター)は心を揺さぶったね!



＊ 友達の声援は、何度失敗しても成功したいという意欲を生む

「花山で遊ぼう！」は、どの活動の場も見通しが良く、幼児がチャレンジしている様子がわかるようになっていきます。よって、次の順番を待っている友達だけでなく、遠くにいる友達でも、目標をクリアしようと、がんばっている仲間の様子が見え、自然と声援があがります。



足場の位置を変えながら、何とか登りました。



ターザンロープは一番人気でした。



何度も繰り返し取り組める時間と空間、仲間があって多様な体験や36の基本的な動きができたんじゃないかな。



＊ 幼稚園の園庭でも実施

花山が所在する栗原市の隣、登米市の「新田幼稚園」では、「花山で遊ぼう！」の種目を園内に再現させ、日常の運動遊びに取り入れています。

花山で実施した時は、先生が遊びの後シールを貼っていましたが、幼稚園ではトイレットペーパーの芯を切り、腕輪にしてシールを自分で貼るようにしました。活動毎に色分けされたシールの色を見ることで、保育者が幼児の好きな遊びを知ることができ、全部の動きができているかも確認できました。



幼児の活動への期待や意欲にこたえる保育者の教材の工夫がいいね！だから園内でも再現できる。



36の基本的な動き

花山の「フィールド」では、36の基本的な動きのうち、以下のような動きを見ることができました。友達と一緒に活動することで、様々な動きに気付くことができたようでした。



幼児の主体的な動きを生み出すには、心を動かすきっかけとなるイメージが大切です。花山の「リック」は森の中でチャレンジしたくなる気持ちをくすぐり、動き出しをスムーズにしました。園内にはない起伏や樹木などを活かした遊び場では、グループごとに友達と一緒に取り組むことで「やって

みたい」「こうやればいいのか」という動きのヒントにもなり、長時間集中して取り組めたと思います。何度も繰り返し取り組める時間と空間、さらに支え合える仲間があって園内ではしにくい多様な体験を主体的にする場になりました。

<普及委員会 福井直美>

雪あそび



みんなですべれば、長い斜面も平気かな？

磐梯青少年交流の家では、積雪を利用した「あそび」が体験できます。積雪があるからこそ活動できる場所もあり、幼児達の自由な発想で楽しむことができます。(体験時間：1時間～1時間半)

フィールド



磐梯の雪遊びでは、36の基本的な動きのうち、以下のような動きを見ることができました。

この活動では、「すべる」「あるく」「はう」が多くみられました。それ以外にも、変わった動きをしながらすべっていく幼児もたくさんいました。

36の
基本的な
動き



❁ 多様な動きにつながる「場」の工夫

柔らかい雪質の斜面を利用した遊びと、硬い雪を利用した遊びの使い分けが見られました。

柔らかい雪質の斜面では、全身を使って登る姿が見られます。その後、登り切った所から滑ったり、ころがったりと、多様な動きのきっかけとなります。硬い雪面では、ソリなどの遊びが体験できます。



はじめは「おしり」、次は「背中」、すべり方も変化します。



ひとことで登ると言っても、多種多様な登り方が見られたよ。その日の斜面の雪質によっても違う、登りながらすべったり、すべるからまた登りたくなったりと、楽しさがとまりません。



登ってすべって、登ってすべって、のくり返しです。

❁ 言葉が動きに繋がる

雪の斜面では、「横滑り」と叫びながら新しい滑り方をはじめた幼児がいて、それを真似するなど、多様な動きが言葉からも誘発されます。また、友達同士、声をかけあいながら一緒にすべるなど、言葉を介して協力し合う姿も見られます。

すべる動きにも、多様な動きが見られたよ。多様な動きを引き出すきっかけは、友達の言葉、先生の言葉、リーダーの言葉だったね。



❁ 体験したこども園保育者の感想

斜面を登る回数を重ねたことで、最初は足でしか登らなかったのに、手を使ったり足跡に手をかけて登ったり、様々な工夫が見られました。滑るときも同様でおしりすべりから、手をつないで友達と滑ったり、うつ伏せや回転をしたり、自分たちで遊びを見つけていたと思います。



幼児は、はじめ一人一人が個々に登り、すべってきます。すべるのが楽しいからもう一度、もう一度とあきることなく繰り返します。そのうちに一緒にすべろうと、協同する姿が出てきます。次は、二人、さらに三人、四人と増えていきます。最後は、先生も含めて全員ですべてしていました。

すべり方にも変化が見られ、おなかですべったり、頭からすべったり、回転しながら

すべったり、まさに多様な動きが出てきます。おなかを下にしてすべっているときに、体を反らせるとスピードが出ることに気付いた子がいました。偶然発見したようですが、偶然が気付きにつながり、多様な動きを誘発します。結果として、動きの量(運動量)も、動きの質(種類)も実に豊かな遊びとなっていました。

<普及委員会 鈴木隆>



●自然との関わりの中で「健康な心と体」を育む

① 自然の中で遊ぶことの意義

豊かな自然は、まさに「センス・オブ・ワンダー」の世界です。日常生活とは異なる多様で豊かな環境が広がっています。様々な植物や昆虫などが生育し、幼児は諸感覚を通して、発見し、考え、工夫し、試していきます。ここに自ら興味を持ち主体的に関わる力が育まれます。

このような環境の中で、幼児の活動内容も行動範囲もおのずと広がり十分に体を動かすことができます。それぞれ幼児の興味に即した活動が展開されることで、遊びを通して必然的に運動量が増え、巧みな身体機能の使い方ができるようになります。

そして、幼児自身が好きなものにどっぷりと関われることは、活動の楽しさや満足を得ながら集中力を養い、工夫すること、探究心を育む

ことにつながります。また、幼児が困ったり、悩んだり、失敗をしても繰り返しチャレンジすることで満足することや成功体験を得ることができます。

幼児はこれらの体験を通して、自分がやりたいことに向かって主体的・意欲的に取り組み、心と体を十分に動かすことで健康な心と体を作り出していきます。

② 幼児の多様な動きを生み出す場とは

- 安全であること
- 安心であること
- 自ら関わりたくなるような魅力があること
- 友達の姿ややっていることが見えること
- 十分な広さと時間があること

●幼児が「やってみたい」となる「場」と「きっかけ」

① 自由に取り組みめる時間を設ける

最初はうまくできなくて、失敗することもあるでしょう。「やってみたい」「できるようになりたい」という幼児の挑戦する気持ちを大切にするには、自由に取り組みめる時間を設けることが重要です。

② 自分なりの目標がもてる場を設ける

一つのやりかたしかできない場では幼児は自らの目標をもつことは難しいでしょう。一人一人が自分なりの目標がもてるように「近くから遠くへ」「低いところから高いところへ」など簡単に取り組みそうなものから徐々に難しいことにチャレンジしたくなるような広がりのある場が必要です。

③ 幼児が遊びを発展させる機会を設ける

決まった遊び方だけで遊ぶのではなく、幼児が遊び方を工夫（再構成）出来ることが、必要です。遊び方を変化させる事を幼児が楽しいと思えるような機会を用意すれば、幼児が遊びを発展していきます。

例えば、坂の途中に1本ロープを用意するとロープを引っ張って登ったり、つたって降りたりと多様な動きに発展します。坂の上に色々な大きさの段ボールを用意しておけば、興味を持った幼児は積極的に滑って降りていくでしょう。また、どうせ坂を降りるなら歩くのではなく「転がっちゃえ！」という子もいるでしょう。

幼児の発想は柔軟です。面白そう!と思ったことには必ずチャレンジします。

だから 森へ、海・川・沢へ、冒険に行こう!!

＊ 森(春～秋)へ出かけよう

森って、園庭や公園とどこが違うの？

森の中での遊びって、同じ外遊びでも何が違うんだらう!?



- 平らなところがない その場に合わせた姿勢やバランスが必要になる
- スケールが大きい、場所が広い 開放感を感じ、心も体ものびのびしてくる
- 遊び方が決まっていない 様々な遊びを自由な発想で展開できる
- 木々は同じものが1つとない 大きさや太さなど、自分に合った遊べる木を探せる
- 様々な植物や昆虫に出会う 探したり、捕まえたりする中で、夢中で体を動かす
- 身近な道具で遊びが広がる ロープがあるだけで、ぶら下がったり、斜面を登れたり、遊びが広がる

春～秋の森では・・・



遊具がない遊園地。アトラクションのないテーマパーク。
自分自身の体が、自然を遊び場に変えていきます。
坂道やデコボコ道、ぬかるんだ道を進み、
とおせんぼしている木も乗り越えていきます。
森の中を歩く幼児の心は、きっと小さな冒険家。
自然と幼児が一緒になって遊び場を作っていきます。



ロープ1本でも遊びが広がる



木にも登れたよ



さあ、坂道を登ろう

＊ 森(冬)へ出かけよう

雪が降り積もった森って、春～秋の森とどこが違うの？
冬の森ならではの楽しみってどんなことだらう!?



- 歩くと足跡が残り、「ギュッギュ」と音も出る 歩くだけでも面白い
- 滑ったり、埋まったりとても歩きにくい 筋力やバランス感覚を高める
- 転がっても痛くない 思い切った動きを繰り返し楽しめる
- 急な斜面も登れる 体を移動するために、足だけではなく、手や全身を使う
- 滑る 普段感じられないスピード感やスリルを味わうことができる
- 様々な形になる 丸めたり、固めたり、くっつけたり、イメージを形にできる

冬の森では・・・



雪は、まるで白い魔法のじゅうたん。
太陽を浴びた雪みたいに幼児の目は輝きます。
春～秋の森は草や低木が生い茂った所も、
綺麗な白いじゅうたんの広場に生まれ変わります。
転がっても、倒れても、痛くないし、よく滑る。
幼児はそこで、とても大胆に体を動かします。



手も使って上へ



転がっても大丈夫!



体だけでも滑るんだ

＊海・川・沢へ出かけよう

水道の水、プールの水に触れる体験と、
海や川、沢の水に触れる体験って、何が違うのだろう!?



- 流れや波など、水に動きがある……………肌で流れを感じることができる
- 水の中を歩くと抵抗がある……………歩くだけで体力を使う
- 磯場や河原など足場の悪いところがある……………自然とバランス感覚が養われる
- 魚やカニなど様々な生き物がいる……………のぞき込んだり、潜ったり、夢中でさがしまわる



海・川・沢では・・・

潮の香り、流れる水の音、キラキラした水面。
海や川、沢などの水辺の自然は、
そこにいるだけで、諸感覚が刺激され、
幼児のワクワク、ドキドキをより一層高めます。
水辺では、一人一人、ダイナミックな動きがとれ、
体全体で自然を感じられます。
一方で、自然の怖さを実感することもあります、
ライフジャケットを着用することで安全に活動ができ、
より水の動きを感じることもできるでしょう。



●安全指導のポイント(環境の把握)

事故やけがを防ぎ、最後まで安全に楽しく遊ぶためには、安全管理の視点が非常に重要です。

事前の安全管理

必ず下見を
しましょう!

- ✓危険箇所の確認
- ✓避難場所の確認
- ✓複数の活動案を検討

事前に状況を把握し、コースや時間の
変更も想定しておきましょう。

指導者や近隣住民に話を聞きながら、
環境の特性を把握しましょう。

活動中の安全管理

常に目配り!!
気配り!!

- ✓気象状況の把握
最新の予報を十分に情報収集しまし
よう。
- ✓危険箇所の対策
問題があればロープを張ったり掲示を
したりしましょう。
- ✓人数の確認
活動前、活動後の人数確認は全ての基
本です。

特に、水辺や雪山の活動は
危険が高まります。

「勇気ある撤退!」の
判断も大切。
再チャレンジの機会はきっとある。



●保育者の援助の工夫

幼児が普段と違う環境と関わるときに、保育者の援助（人的環境）はとても大切です。保育者からの言葉かけや、表情、振る舞いが安心感やドキドキワクワク感を与え、積極的に主体的な遊びが展開されるでしょう。

導入 遊びの「イメージ」や「ストーリー」を視覚的に臨場感を得られるように伝える



森の中で木登りや傾斜で遊ぶ時など「ニン!ニン!」などと言いながら、忍者になりきります。



絵本などで森の楽しさや、チャレンジしてみたい遊びなどをイメージします。



森の中では「リス君が待っているよ!」などと、キャラクターを活用し自然に親しみやすくします。

活動中

1 課題解決は自分の力でやる



遊びを通して「できた!」「先生見て!」など幼児が自分の力で解決をしたことは自己有能感につながります。少々難しそうなお課題でも「できた喜び」は揺るがない力となります。

2 本人が気づいていないことを気づくように配慮する



幼児が夢中になっている時こそよく観察し、初めてできるようになったことに本人が気づいていない時は、「いつの間にできたの?」といった保育者からの一言が意欲を育みます。

3 ストーリーを思い出させる



動きが停滞して来たら、時々イメージや幼児のやりたいことを確認します。自然の中では「森の中でリス君が待ってるよ!」など、意欲ややる気を引き出すきっかけを与えます。

4 幼児に必要な援助が何かを常に考える



遊びの中で幼児の状況は刻々と変化します。幼児が考え行動できるように、少しヒントを与えます。「これってこうするんだ」などとつぶやくことは有効な援助の一つです。

5 励ましの言葉をかける



「すごいね」「できたね」など幼児の発言や行為に励ましの言葉をかけることで自信を持たせることができます。積極的に励ましの言葉をかけましょう。

6 幼児と共感する



自然の中では、幼児を評価するのではなく、幼児の気持ちに共感することが大切です。「そうだね」など幼児の発言や行為にじっくりと寄り添ってください。幼児は共感されることで安心感を高め、更なる活動へと向かいます。

幼児が、自分の力でものごとに取り組めるよう工夫をしていきましょう!

●安全指導のポイント(幼児への伝え方)

♡イラストで伝える

写真や絵を使って、見て分かる工夫もあります。例えば、「ハチ」のイラストを見せながら、「ブーン」という効果音をつけると、興味をひくでしょう。



♡集中できる場所で

活動場所を目の前に、注意点を伝えても聞く耳を持ちません。絶対に守ってほしいことは、落ち着いた場所で伝える必要があります。



♡歌にのせて覚える



手遊び歌のメロディーを活用しながら、歌と動作で伝えると楽しく覚えられます。

♪「でーたぞ!でたぞ!」

♪「なーにかでたぞ?」

♪「ハチ!」

頭を押さえながら、かがむ。

振り回さない!
静かに
しゃがみましょう。

♪「でーたぞ!でたぞ!」

♪「なーにかでたぞ?」

♪「ウルシ!」

手をお尻に隠す。

舐めない!
ウルシの特徴を
覚えておきましょう。

♪「でーたぞ!でたぞ!」

♪「なーにかでたぞ?」

♪「クマ!」

ゆっくり、後ろに下がる。

小荒でない!
熊の様子を見ながら
離れましょう。

♡お互いに確認し合うことで意識を高める

服装や装備(ライフジャケットなど)が、きちんと着用できているか、準備できているか、幼児同士で確認することも大切です。そうすることで、安全についての意識を高めることができます。



幼児が「これで大丈夫!」だということを実感できることが
大切であり、それが**主体的な動き**につながります。
安全を確認してから、思いっきり遊ばせましょう!

●自然の中で遊ぶ際の服装

★動きやすさ重視!

帽子は頭を守ります。

- ・帽子 ・長袖
- ・長ズボン
- ・履きなれた運動靴
- ・雨具(セパレートタイプが良い)

サイズの合った靴を。
足首もギュッとしめます。



リュックの中に
水筒や雨具を
入れておきます。

★生命に直結!

速乾性の高い服装と
ライフジャケットが
身を守ります。



- ・水着 ・帽子
- ・ラッシュガード
- ・靴下と濡れても良い靴
(履きなれた靴で可)
- ・ライフジャケット
(必須です)

ライフジャケットの
ジッパーやバックルは
しっかり確認しましょう。



★防寒重視! 体温を保とう!

足カバーは大事です。
靴に雪が入ってくると
体温が冷え、楽しく
遊べません。

- ・スキーウェア
- ・スキー手袋
- ・ニット帽子
- ・長ぐつ ・足カバー
- ・着替え



●自然の中で遊ぶ際の保育者の持ち物

両手を動かすことのできるリュックサックで!



- ・敷き物(ブルーシート)
- ・補給水(経口補給液も有効)
- ・保険証のコピー
- ・緊急連絡網
- ・バインダーと筆記用具
- ・救急セット



- ・ウェットティッシュ
- ・ガーゼ(清潔なタオルや包帯)
- ・ばんそうこう ・消毒薬
- ・冷却ジェルシート ・体温計
- ・ポイズンリムーバー ・ビニル袋
- ・添木 ・バンダナ ・テーピングテープ
- ・かゆみ止め

ブルーシートなどで
広いスペースを確保すると、
全員の持ち物を置けるし、
休憩スペースにもなるよ。



まとめ

青少年教育施設では保育施設で体験できない自然があり、幼児は新しいことにチャレンジしたり、目標を達成したりしながら、活発に体を動かして遊ぶことができます。幼児が自然の中で体験した沢山の遊びを通して培った「主体性」や「意欲」は、毎日の保育施設での生活や遊びの中に必ず繋

がっていきます。

また、しばらくしてから、青少年教育施設で見た木々や花、昆虫などを保育施設で再発見した際には、身近な自然への関心も高まります。

ぜひ、自然豊かなフィールドがある青少年教育施設にお越しください。

幼児期の教育の重要性について

最近、様々な研究で、IQや学力といった「認知能力」だけでなく、根気強さ、意欲、社会性といった、「非認知能力」を幼児教育の段階で身に付けられるかどうか、大人になってからの活躍に大きな影響を与えることが分かってきました。今、人生100年と叫ばれている時だからこそ、幼児教育への期待が一段と高まっています。

さらに、昨年12月に政府がとりまとめた「新しい経済政策パッケージ」には、3歳から5歳までのすべての子供たちを対象に、幼児教育を無償化することが掲げられました。

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うものであり、幼児期から人材への投資を拡充することが、人材の質を高めることにつながるため、すべての子供に質の高い幼児教育の機会を保障することは、極めて重要な政策として明確に位置づけられました。

また、幼児期の教育の質の向上に資するため、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園がそれぞれの施設でそれぞれの役割を果たすとともに、どの施設においても就学前の子供一人一人の健やかな成長を支えることができるよう、今回の改訂・改定では、要領等の

内容について一層の整合性を図ったところで

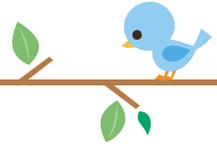
す。今回、改訂した教育要領等は、育みたい資質・能力を明確化するとともに、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿を明確にし、小学校と共有することにより、幼小接続していくことが求められています。

日常の遊びや様々な体験を通して、幼児が発達していく姿について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、一人一人の発達の特性に応じて、必要な体験が得られるような状況をつくったり、必要な援助を行ったりするとともに、成長と課題を認識して教育要領等が示す教育へとつなぐことが重要です。今回は、子供たちが非日常の環境に好奇心を持ち、多様な刺激を得られる効果的な自然体験活動の事例等をまとめましたので、教育要領等のねらいを実現するための手段・手法の一助として、ご参考にしていただければ幸いです。

「幼児期の遊びを中心とした運動プログラムの推進事業」
普及委員会 安浦信弘

「しぜんであそぶ！」まるわかりガイドブック

～「土場」と「きっかけ」から身に付く36の動き～



平成30年3月 制作
5月 第一刷発行
7月 第二刷発行

[発行] 国立青少年教育振興機構
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
TEL 03-6407-7722

[制作] 「幼児期の遊びを中心とした運動プログラムの推進事業」普及委員会
【委員長】鈴木隆 (東京家政大学 教授)
————— 全体監修／「実践事例報告 (妙高・磐梯)」執筆
福井直美 (明治学院大学 特命教授)
————— 「援助にあたってのポイント」監修／「実践事例報告 (立山・花山)」執筆
町山太郎 (まどか幼稚園 園長・玉川大学他非常勤講師)
————— 幼稚園教育要領、保育指針等に基づいた運動遊びと
運動の質を高める工夫について 執筆
安浦信弘 (文部科学省初等中等教育局幼児教育課課長補佐)
————— 「幼児期の教育の重要性について」執筆
福岡公平 (国立能登青少年交流の家事業推進係長兼企画指導専門職)
————— 「写真で見る36の基本的な動き」選出
石川剛史 (国立信州高遠青少年自然の家企画指導専門職付主任)
————— 「写真で見る36の基本的な動き」選出

幼児教育支援事業検討チーム
(松村純子(国立花山青少年自然の家)、室井修一(国立磐梯青少年交流の家)、齋藤 雄(国立若狭湾青少年自然の家))
————— 「援助にあたってのポイント」執筆
国立青少年教育振興機構教育事業部
(津久井 賢、藤井 玄、本田 愛、長谷川 祐太、中谷 仁、竹内 恭平)
————— その他ページの執筆・編集

[協力] 国立青少年教育振興機構 全27地方施設

[デザイン] 高橋雅子

[印刷・製本] シンソー印刷株式会社

- 本書で紹介している体験活動の中には、危険を伴う活動も含まれていますので、必ず大人の指導者のもと、活動を行ってください。
- 当該情報につき読者の皆様が損害を被った場合でも本機構は一切責任を負えません。読者ご自身の責任においてこれらの情報をご活用ください。
- 無断転載・複製を禁じます。ご使用の際には、発行元まで連絡願います。

施設名	幼児が遊ぶことのできる「場」					
	森	山	原っぱ	川(沢)	海	雪
① 大雪青少年交流の家	●	●	●	●	●	●
② 日高青少年自然の家	●	●	●	●	●	●
③ 岩手山青少年交流の家	●	●	●	●	●	●
④ 花山青少年自然の家	●	●	●	●	●	●
⑤ 磐梯青少年交流の家	●	●	●	●	●	●
⑥ 那須甲子青少年自然の家	●	●	●	●	●	●
⑦ オリンピック記念青少年総合センター						
⑧ 赤城青少年交流の家	●	●	●			
⑨ 信州高遠青少年自然の家	●	●	●	●	●	●
⑩ 妙高青少年自然の家	●	●	●	●	●	●
⑪ 立山青少年自然の家	●	●	●	●	●	●
⑫ 能登青少年交流の家	●	●	●		●	
⑬ 若狭湾青少年自然の家	●	●	●	●	●	
⑭ 中央青少年交流の家			●			●
⑮ 兼毅青少年交流の家	●	●	●			●
⑯ 曾爾青少年自然の家	●	●	●	●		
⑰ 淡路青少年交流の家			●		●	
⑱ 吉備青少年自然の家	●	●	●	●		
⑲ 三瓶青少年交流の家	●	●	●			●
⑳ 江田島青少年交流の家	●	●	●		●	
㉑ 山口徳地青少年自然の家	●	●	●			
㉒ 大洲青少年交流の家	●	●	●	●		
㉓ 室戸青少年自然の家	●	●	●		●	
㉔ 夜須高原青少年自然の家	●	●	●	●		
㉕ 諫早青少年自然の家	●	●	●	●		
㉖ 阿蘇青少年交流の家	●	●	●			
㉗ 大隅青少年自然の家	●	●	●		●	
㉘ 沖縄青少年交流の家			●		●	

国立オリンピック記念青少年総合センター(1か所)

国立青少年交流の家(13か所)

国立青少年自然の家(14か所)

